

## 小学校第4学年3組 外国語活動学習指導案

【日時】令和4年11月1日(火) 10:00～10:45 【場所】4年3組教室 【指導者】松下 大介

### 本授業の主張点

クラスみんなで使いたい文房具を提案するために、Small Talk やいろいろな情報を共有する中で、慣れ親しんだ表現を活用しながら、欲しい文房具と理由を友達と伝え合っている児童の姿をお見せします。

1 単元名 Do you have a pen? (*Let's Try!* 2 Unit 6 参照) 「4の3文房具コーナー」を作ろう

### 2 単元の構想

#### (1) 単元について

本単元は、*Let's Try!* 2 Unit 6 “Do you have a pen?” の単元を基に内容を児童の実態に合わせて構成したものである。児童の興味・関心やクラスへの思いに沿って設定したパフォーマンス課題について、これまで慣れ親しんだ表現も使って、自分自身や友達とクラスで使いたい文房具を学習した表現等を使ってお互いに分かりやすく工夫しながら表現し伝え合う力の育成を目指す。また、これまで国語科を中心に学んできた、相手に自分の考えを伝える方法を活用しながら取り組むことができる。本単元では、クラスで使いたい文房具を提案し購入してもらうために発表の場を設定し、そのために必要な英語表現や情報を、言語活動を通して友達と伝え合いながら確認し、単元のゴールへ向かうようにする。その中で、既習の英語表現と他教科の学びを結び付け、単元終末のゴールであるみんなで使いたい文房具の発表まで友達と協働しながら、意欲を維持したまま活動することができる内容である。この活動が、小学校高学年における日本のよさや行きたい国などを発表することにつながる単元でもある。そして、更には、中学校において、不定詞や because 節の学習へとつながると考えられる。

#### (2) 児童について

本学級の児童は、これまで曜日や時間を題材にして友達や教師と伝え合ったり自分自身のことを紹介したりする学習を行っている。それらの学習では絵を描いたり絵カードを用いたりして自分のことを表現し伝える様子が見られた。その経験から、表1から分かるように、約9割の児童は友達やALTなど相手のことを考えながら活動に取り組むことができていると感じている。しかし、自分の考えや気持ちを英語で紹介することができていると感じている児童は、約6割にとどまった。理由を尋ねると、正しい表現でもっと自分のことを伝えたいが、分からない表現があったり、早く、また数多く友達とやり取りしたかったりするというものが多かった。すなわち、丁寧なやり取りができず、十分に英語を用いた言語活動になっていないと考えられる。そこで、友達と目的を達成するために、これまで学習したり新しく慣れ親しんだりした表現を用いて、欲しい情報の根拠となる考えや気持ちまで丁寧にやり取りできるようにしたい。更に、そのやり取りを発表へ生かすことができるようにしたい。

表1 事前の意識調査

N=34 (うち、男子17名、女子17名)

質問	○	△	?
友達やALTのことを考えながら活動に取り組んでいる。	32	0	1
自分の考えや気持ちを英語で尋ねたり答えたりできる。	25	8	1
自分の考えや気持ちを英語で紹介することができる。	20	11	0
友達や教師とのやり取りで「いいな」「まねしよう」と思うことがある。	28	2	2
友達や教師とのやり取りで「いいな」「まねしよう」と思った時はやってみる。	25	6	2

#### (3) 指導について

単元構成を考える際は、児童とパフォーマンス課題を考え、逆向き設計で単元内容を組み立てる。例えば、*Let's Try!* 2 Unit 「ピザを作ろう」の単元では、まず、ピザが好きな ALT や教育実習生にピザを作ろうという単元のゴールを設定する。そして、そのゴールを達成するために、どんな活動が必要か考え、教師らの好みを尋ねる “What do you like?” や、どの具材が必要か尋ねる “What do you want?” に慣れ親しませ、聞いたり発表したりすることができるようにゴールまでの学習活動を設定する。それにより、児童も教師も単元のゴールを意識しながら、必然性をもって取り組むことができる。

本単元の指導にあたっては、単元の導入では、本単元のゴールをイメージできるような動画を視聴させ、目的と場面、状況の設定をする。その後、マッピングを活用して考えたパフォーマンス課題を共有

し、児童が見通しをもって活動に臨めるようにする。表現に慣れ親しむ段階では、文房具や紹介するための基本的な表現について児童が自信をもって表現することができるように、ゲームやチャンツ、更には Small Talk を設定することで何度も繰り返して聞いたり声に出したりして慣れ親しませる。それにより、英語を用いた言語活動の土台を作る。単元のゴールの段階では、クラスみんなに発表する。そこで、本時では、児童に聞き手・話し手の立場で分かりやすい伝え方を意識して友達と伝え合うようにする。既習や新出の表現を用い、何とかして自分のことを伝えようとする姿を認めていく。その際、絵やジェスチャーなどの非言語を活用することで、慣れ親しんだ表現と共に、十分に自分の考えや気持ちまで伝えられるようになることを考える。そして、中間指導を取り入れて、ゴールに向けて児童が活動を行えるようにしたり、児童がこれまでの活動で情報を整理し、困り感や疑問点を解決したりしながら、よいコミュニケーションを意識した伝え方で、欲しい文房具を紹介することができるようにする。単元を通して、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせて、深い学びの育成を目指す。

#### (4) 深い学びについて

本単元は、「話すこと（発表）」領域の単元である。この領域で働かせる主な外国語によるコミュニケーションにおける見方は、「目的・相手意識」、考え方は、主に「ストラテジー」に関わると考える。当該学年においては、表2の[主な言語材料]を使う場面において働かせることができると考えられる。

表2 「話すこと（発表）」 第4学年の主な内容及び外国語における見方・考え方

Let's Try! 2	内容[主な言語材料]	外国語によるコミュニケーションにおける見方	外国語によるコミュニケーションにおける考え方
Unit 4	・What do you like? ・What do you want?	・言語の機能 ・社会的・文化的背景 ・目的・相手意識	・言語運用の適切さ【評価する】 ・ストラテジー【見通す】【変換する】 ・一貫性と結束性の理解、表現【焦点化】【関連づける】
Unit 6	・I want ○○ because ～.		
Unit 8	・Where is ○○? ・Go straight. Turn right/left.		

表2に示す外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら学ぶ本単元及び本時における児童の姿を全体要項の「深い学び」に関わる児童の姿と関連させると表3のようになる。

表3 「深い学び」に関わる児童の姿

	「深い学び」に関わる児童の姿	本単元及び本時における児童の姿
①	学習活動に見通しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	パフォーマンス課題の解決に向けて、毎時間積極的に取り組む姿であり、単位時間ごとの振り返りを基に、できたことや発見・再発見したことと共に、次時に向けた課題を設定し、学習に向かおうとしている。
②	「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	単元を通して、欲しい文房具をそろえてもらうために、伝える内容を方略的に考えながら、自分の考えや気持ちを相手に伝えている。
③	知識が概念化し、知識の質が高まっている。	「提案」や「理由」の内容について、既習表現を活用することで、表現に慣れ親しむと同時に、他の場面でも使えることに気付く。
④	学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	結論→根拠・理由の順で伝えると分かりやすいことを、今後の活動やテーマでも生かそうとしている。
⑤	他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	国語科等で相手に伝えるために気を付けるポイントを意識し、分かりやすく伝えようとしている。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

「学級で使いたい文房具を提案して、みんなで使える文房具コーナーを作る」という単元のゴールに向かって、学校で使う文房具などの言い方に慣れ親しんだりする。そして、欲しい文房具がそろえるように、何とかして慣れ親しんだ言語材料やジェスチャーや具体物などの非言語材料を用いて、相手に配慮しながら自分の欲しい文房具について伝えたり、友達の考えやその理由を聞いたりすることができる。

(2) 評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	文房具など学校で使う物の言い方、I have/don't have ~. Do you have ~? Yes, I do./No, I don't.などの表現を聞くことに慣れ親しんでいる。	学級のみんが使う文房具コーナーを作る参考にするために、教師や友達の話聞いて、意味が分かっている。	学級のみんが使う文房具コーナーを作る参考にするために、教師や友達の話聞いて、意味を分かろうとしている。
話すこと 〔やり取り〕	文房具など学校で使う物の言い方、I have/don't have ~. Do you have ~? Yes, I do./No, I don't.などの表現を用いて、伝え合うことに慣れ親しんでいる。	学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりしている。	学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりしようとしている。
話すこと 〔発表〕	文房具など学校で使う物の言い方、I have/don't have ~. I want ~.などの表現を用いて、欲しい文房具について紹介することに慣れ親しんでいる。	学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら紹介している。	学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら紹介しようとしている。

4 単元の指導計画（全5時間 本時4／5時間目）

	主な学習活動(○)	指導上の留意点(・)	評価の観点			評価規準
			知	思	主	
1	○Small Talk ○Small Talkをもとに、課題を共有してパフォーマンス課題を作成する。 ○必要な表現など単元を通じた学習の見直しをもつ。	・テーマをもとにパフォーマンス課題を設定し、単元を見通すことができるようにする。 ・どのような表現が必要か児童に考えさせたり基本表現を提示したりする。				※ 本時では、目標に向けての指導は行いが、記録に残す評価は行わない。
2	○チャンツやゲームを通して、文房具の英語での言い方に慣れ親しむ。 ・ヒントクイズ ・カルタ ・交換ゲーム ○【Let's Watch and Think】	・ゲーム活動を通して、文房具の言い方に慣れ親しむようにする。 ・動画を視聴したりや教師の話の聞いたりして、外国の子供の文房具や持ち物と自分たちがよく使う文房具や持ち物との違いに気付くようにする。	聞	や	聞	・文房具など学校で使う物の言い方、尋ねたり紹介したりする表現を聞くことに慣れ親しんでいる。【知・技】 ・文房具など学校で使う物の言い方、尋ねたり答えたりする表現を用いて、伝え合うことに慣れ親しんでいる。【知・技】
3	○Small Talk ○発表の準備や練習をする。	・インタビューなどの活動を設定し、発表で使う表現に慣れ親しむようにする。 ・日本語でのよい発表の仕方を想起させ、外国語活動でも活用できるように気付かせる。				・文房具など学校で使う物の言い方などを用いて、欲しい文房具について紹介する表現に慣れ親しんでいる。【知・技】
4 本時	○Small Talk ○クラスの友達と自分が欲しい文房具を紹介し合う。	・自分のお気に入りの場所について、相手に伝わるような紹介ができるようにモデルを示す。 ・活動を通して、「どのように伝えたらよいか」を考えさせ、学級で伝え方を共有できるようにする。 ・紹介を聞いて、理由などを尋ねる場面を設定し、考えや感想について交流させる。	発	や	聞	・学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりしている。【思・判・表】 ・学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりしようとしている。【主】
5	○クラスみんなですぐにしたい文房具を紹介する。	・自他の違いを考えながら聞くなど、聞く際のポイントを確認したり提示したりする。 ・発表に対して反応するように促す。			発	・学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら紹介している。【思・判・表】 ・学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら紹介しようとしている。【主】

※ 聞…聞くこと、や…話すこと（やり取り）、発…話すこと（発表）

5 本時の指導（4／5）

(1) 深い学びの姿

学習活動に見直しをもち、計画を立てたり調整したりしながら、粘り強く取り組み続けている。学習課題に対して関心をもち、主体的に課題解決を図ろうとしている。	○
「見方・考え方」を働かせながら思考・判断・表現し、自分の考えを再構築している。	○
知識が概念化し、知識の質が高まっている。	
学びの成果を次の学習や生き方に生かす目的意識や達成感を得ている。	
他教科等の学びの経験を結び付け、意欲を高めたり、解決の道筋を広げたりしている。	

(2) 指導目標

実際に学級で使いたい文房具コーナーを作るために、前時までに学習した表現や使いたい文房具について相手に伝わるように工夫しながら友達に紹介し、考えや感想を伝え合うことができるようにする。

(3) 評価規準

イ 学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりしている。友達の紹介について感想を示すなど反応しながら聞いている。【思・判・表】

ウ 学級のみんが使う文房具コーナーを作るために、相手に伝わるように工夫しながら尋ねたり答えたりしようとしている。友達の紹介について感想を示すなど反応しながら聞こうとしている。【主】

(4) 「見方・考え方」を働かせる手立て

- ・目的意識・相手意識をもって考えた内容や伝え方でそれを可能にするために、絵カードや掲示物など視覚的な情報を提示し、児童が安心して考えたり実際に伝えたりできるようにする。
- ・児童の目的意識・相手意識を明確にするために、ルーブリックの確認や中間指導の場面を設定する。

(5) 展開

学習活動と児童の反応 (【 】)	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 “Do you have…?” を使った Small Talk を聞き、反応したり内容を考えたりする。(10分)</p> <p>T(教師): I want to check your worksheets. Do you have a red pen? C(児童)1: ... T: 何と言えればいいかな? C2: Yes! C3: Here you are! T: Yes, that's right. C1, is it OK? C1: Yes, here you are. T: Thank you. Great! T: I want to cut this paper. Do you have scissors? C2: Yes, here you are. T: Thank you. Good job!</p>	<p>1-(1) 本時の活動の見通しをもたせるために、これまでの活動の流れを示した掲示物を用いたりこれまでの活動で扱ったテーマを用いたりして、既習表現や内容を想起できるようにする。</p> <p>1-(2) <u>実際に教師と児童で文房具の貸し借りのやり取りする場面を設定し、文房具の表現を確認することで、中心活動につながるようにする。</u></p> <p>1-(3) 本時のめあてを児童から導くことで、本時は友達に発表し、自分のおすすめの文房具を知らせることを意識できるようにする。</p>
<p>自分がほしい文房具を分かりやすく紹介しよう。</p>	
<p>2 自分が欲しい文房具を伝える。(25分)</p> <p>【場面①】 C1: Hello. What do you want? C2: I want stickers. C1: Why? C2: I want to use (to mark on the) book. C1: Good. C2: What stationary do you want? C1: I want clips. C2: Why? C1: I want (to clip) my worksheets. C2: ...OK. Thank you.</p> <p>【場面②】 C3: Hello. What stationary do you want? C4: I want color pens. C3: Color pens. Why? C4: I want to use many colors. C3: Oh, good. Me, too. C4: What stationary do you want? C3: I want a pencil sharpener. C4: Why? C3: I want to sharpen my pencils. C4: Good idea. I want. Thank you.</p>	<p>2-(1) めあてを達成し、単元のゴールに向かうことを意識して伝え合うことができるようにルーブリックを確認する。</p> <p>2-(2) <u>慣れ親しんだ英語表現が使われている場面を聞くことで、どんな英語表現を用いたらよいか確認できるようにする。</u></p> <p>2-(3) <u>明確な目的意識をもった発表にするために、前時に作成した「発表のためのルーブリック」を確認し、より良い発表に向けた意識付けを行う。</u></p> <p>2-(4) 児童が主体的に考えて紹介をできるように、友達同士で話し合ったり練習したりする時間を設ける。</p> <p>◆ 自分の欲しい文房具について、相手に伝わるように工夫しながら紹介しているか。(観察)【思・判・表】 B 自分の欲しい文房具について、相手に伝わるようにジェスチャーや視覚情報などを用いて伝えている。 C→ 友達が話しているのを聞いて、教師と友達が行った工夫について一緒に考えたり、声を掛けたりする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・■■は、どう言えればいいだろう？</li> <li>・ちゃんと反応する(してもらおう)と気持ちいいなあ。</li> <li>・理由を言う時は、because を使えればいいのか！</li> </ul>	<p>2-(5) 中間指導を行い、①やり取りの態度面、②やり取りの様子(使用している表現、反応)、③児童の活動への戸惑い(語彙、反応、活動の方法)に対する解消の観点で見取り、全体に紹介したり実際に提示したりする。</p>
<p>【場面③】 C3: Hi. I want stickers. How about you? C1: I want clips because I want to clip my worksheets. C3: You want a pencil sharpener. Nice. C1: Why (do you want a pencil sharpener)? C3: Because I want to sharp my pencils. C1: Great! I see. Thank you.</p>	<p>2-(6) 活動の途中で、ルーブリックを用いて、自己評価させることで、後半の活動についての見通しを立てられるようにする。</p> <p>2-(7) 同じ文房具を選んでいる友達、違う文房具を選んでいる友達と多角的・多面的な視点で自己の発表を見つめられることができるように、ペアリングやグルーピングを意図的に行う。</p>
<p>3 本時の活動を通して気づいた点を共有し、振り返る。(10分)</p> <p>・○○さんが写真やジェスチャーがあつて分かりやすかったので真似したいと思った。 ・今日の学習を生かしてクラスのみんがに自分のおすすめの文房具を分かりやすく伝えたい。</p>	<p>3-(1) 自己の学びを可視化するために、児童個人でルーブリックを使って振り返るようにする。</p> <p>3-(2) 本時の内容を整理させるために、伝える時に工夫したことや相手の話を聞いて考えたことなど、めあてに迫る振り返りができている児童の振り返りを取り上げ、全体で共有する。</p>